



No.124

平成16年4月20日発行

路材協会報

路面標示材協会

東京都千代田区神田佐久間町2-13(深津ビル)
〒101-0025 Tel (03) 3861-3656
Fax (03) 3861-3605

目次

路面標示材活躍の場を増やそう	理事 岩国信彦	1
路面標示材の変遷と今後の課題	森 昌之	4
平成16年2月末の道路交通事故死者数について	事務局	13
事務局便り		16
余滴		16



路面標示材活躍の場を増やそう

理事 岩国 信彦

いよいよ平成16年の新年度に入って、官公庁も企業も新予算とか、新組織、新人事とかで、どこもが忙しい事とおもいます。それにしても、このところ税収の伸びも無く、国内景気もまだまだで役所の予算、ひいては私共企業の販売計画も、非常に厳しい状態におかれています。先般も、いろいろな役所の方々と話す機会がありましたが、予算の縮減等で、交通安全関係では平成16年度の発注は抑えざるを得ないとか。又、路面標示の発注では、高輝度

のような、高単価のものを削って、なるべく施工の量を確保したいなどのお話しが出ておりました。

そこで思いますのに、我が国は今や世界の中でも例を見ないぐらいの急速な高齢者交通社会を迎えており、高輝度路材の益々の重要性とか、リブ付の路材の交通事故をおさえる効果とか、路面標示を太く大きくして、より判りやすいインパクトのある標示にしていくという重要性が、十分にご理解と納得を得ていないのかなと考えます。又、現在、路材協として取り組んでいる環境にやさしい路材（例えば水性型ペイントとか）、より安全な黄色系顔料への取り組みなど、その辺の啓蒙活動も、今ひとつ我々の努力が足りないのかなあと反省させられました。

国土交通省の16年度要求予算の中でも、概算要求の中で道路・公共交通の安全対策等には、事業費4,135億円とされ、昨年対比1.14倍ということになり、特に、

- 1) 交通事故対策の推進
- 2) 安心歩行エリアの整備
- 3) 事故危険箇所対策の推進を自治体と提携し、拡大実施すること

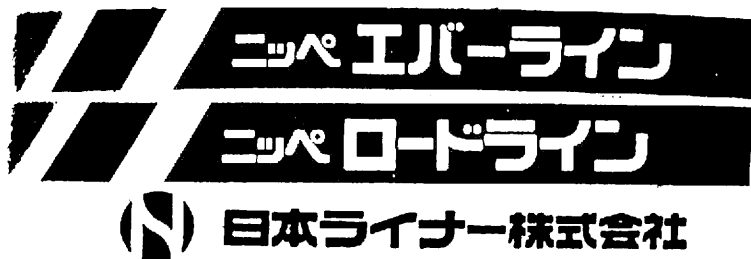
などとなっています。そういった大きな環境を見れば、決して、我々のマーケットが縮減一方というわけではないと思います。たとえば、

その中の、2) 安心歩行エリアの施策例として、

- ①交差点の改良
- ②信号灯器のLED化
- ③歩道の整備
- ④歩車分離
- ⑤車より人や自転車の通行を優先するゾーンの形成
- ⑥路側帯の明確化（路側帯のカラー化とかワイド化）
- ⑦高輝度道路標識

等が具体的に考えられています。勿論、路面標示に関係のない施策も含まれていますが、路

「安全・円滑・快適」な道づくりを目指して




〒105-0014 東京都港区芝二丁目17番11号 パーク芝ビル
PHONE;03-5419-9681 FAX;03-5419-9688

面標示というのは、非常に広範囲に適用され得る施策です。また最近、採り上げたやり方や工夫が、オンブズマンなどの活躍もあって、コストとその効果の観点から厳しくみつめなおされています。この観点でも、路面標示というのは優等生です。比較的安価な施工費、安価な材料コストの点から、他のどんな工夫、やり方にも負けない優れたパフォーマンスを持っているということに関係者の皆様から認めて頂けているところです。

標示のワイド化、減速マークの路面標示、右折レーン標示、交差点のカラー化、路側のカラー化、など景観の観点からも、今後いろいろ知恵が出せるところでしょう。きれいに整備された区画線の存在は、管理者の姿勢が感じられて、運転者、歩行者とも安心して、暮らしていくことができます。このように考えれば交通安全に対する路材の活躍の場は、増えこそすれ、減少することはありえないはずです。従って、この際是非とも、路材の役割を見つめなおし、自信をもって、その拡大に邁進したいと思うところです。路材協メンバーのより一層の努力を要請するとともに、担当される官・公の方々にも、是非とも交通安全寄与への観点からお含みおきいただき、区画線のみならず、各種の路面標示材の採用の拡大を、願いますところでは。

(日本ライナー株式会社 営業本部副本部長)



ATOMIX

さらに一歩。
人と環境の共生に向けて。

アトミクス株式会社 (旧社名：アトム化学塗料株式会社)
本社/〒174-8574 東京都板橋区舟渡3-9-6 TEL.03-3969-3111 FAX.03-3968-7300

路面標示材の変遷と今後の課題

森 昌之

路面標示材協会は昨年設立30周年ともなり、路面標示の業界も新しい時代を迎えようとしています。そこで、これまでの路面標示材の変遷から、その今後の課題について、以下に少し申し述べてみたいと思います。

1. 社会の変化と現状の問題

路面標示材の需要は、ここ10数年来、減少の方向が続いている。因みに、当協会の自主的調査によるJIS K 5665 3種溶融型塗料の生産量推移は、図-1のようになり、現在は10万トンを近くまで落ち込んでいる。

過去のバブル期のように、公共事業予算もかなりあり、交通安全対策にもかなりの金額が投入されていた頃を思うと、現在では予算が当時の半分以下の自治体がほとんどのである。(道路延長は確実に増加しているにもかかわらずである。) 過去には、まだ路面標示の塗膜が多少残っていても、新たに塗り直したものであり、特に年度末や国体・その他格別な行事等がある場合は、道路がきれいに化粧されたものであった。しかし現在は、予算不足による塗り替え時期の延期によって路面標示が摩耗して見え難くなり、交通安全上支障があるようにならないとメンテナンスをすることがなく、それも薄くなったところだけの継ぎはぎ塗装が多くなっている。

一方、この約40年来、高速道路の延長・道路の改修も進み、自動車の保有台数・運転免許の保有者も着実に増加の一途をたどっている状況の中で、年間の交通事故死者数は昭和45年の16,765人を最高に、平成15年はその半分以下の7,702人にまで下がっている(図-2)。しかし、その反面、平成15年の交通事故件数は年間94万件以上、死傷者数に至っては同118万

21世紀にふさわしい 環境づくりに取り組む



路面標示用塗料(溶融用)

キクスイイン

キクスイ ペイント
(常温用・加熱用)

公共環境を表現する

株式会社キクテック

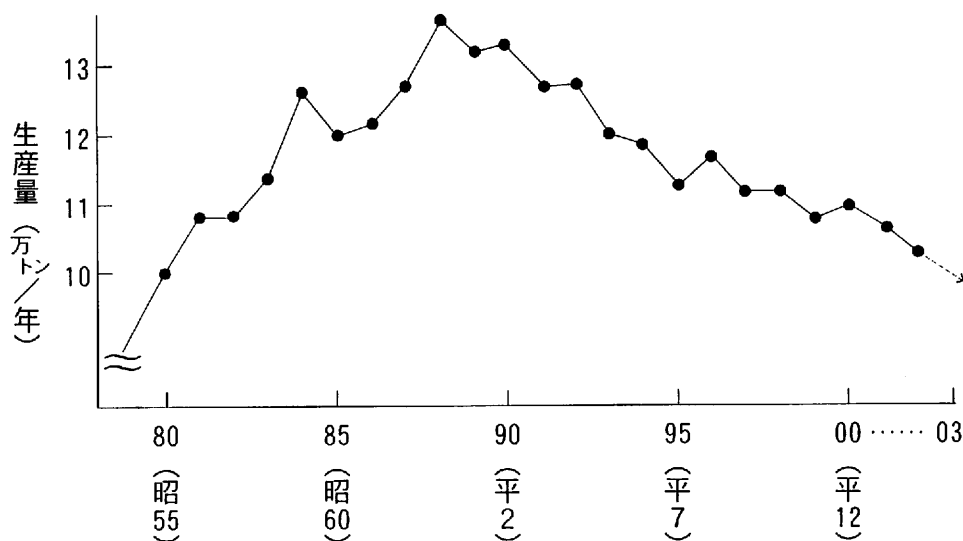
本社 〒457-0836 名古屋市中区加福本通1-26
TEL 052-611-0680 (代) FAX 613-3934

人以上のものぼっており、増加傾向である。これらは図-3のグラフから運転免許保有者数、自動車保有台数、自動車走行キロ数の増加に比例しているのが一目瞭然であり、また当然でもある。

なお、死者数が減少したのは、シートベルトの着用率の向上、車の安全対策の向上などによるものと思われるが、交通事故件数の増加や死傷者数の増加に歯止めがかからないのは、ドライバーの交通規則遵守程度の問題、抜本的な安全対策の実施等が今後のさらなる課題ではないだろうか。

ドライバーにとって安心して運転ができる条件としては、道路標識のほかに、やはり道路の線形がはっきり視認できる路面標示が求められる。

図-1 路面標示用塗料3種の生産量推移



路面標示用塗料

トアライナー

MR(溶融)・P(ペイント)

株式会社トウペ

本社/堺市築港新町1丁5番地11

〒592-8331

☎0722(43)6419

支店/東京都台東区東上野6-16-10(KBUビル)

☎03(3847)5614

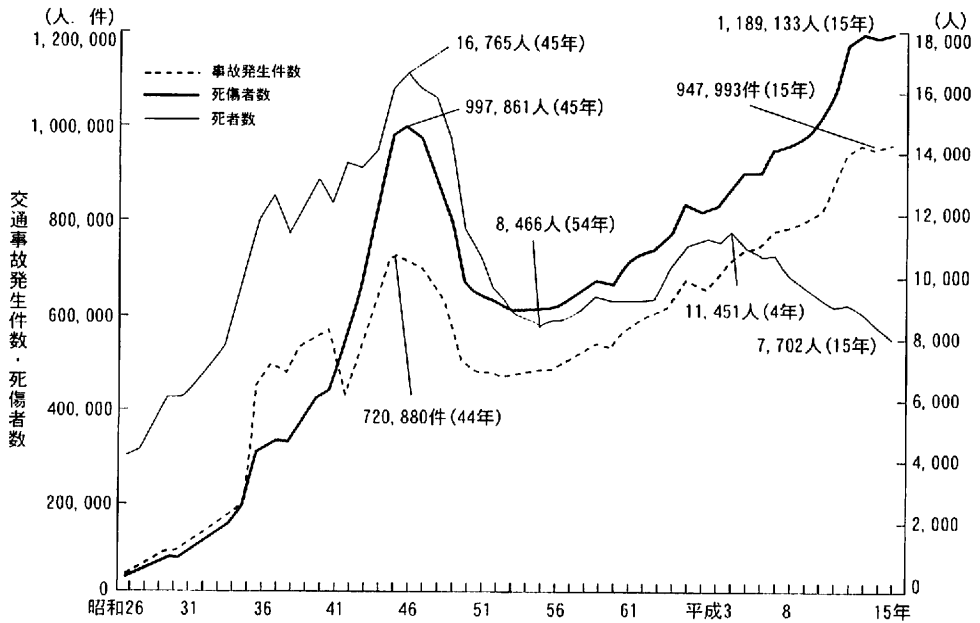
〒110-0015



路面標示材の役割として、従来から要求されている点は

1. 十分な視認性
2. 耐スリップ性
3. 耐摩耗性
4. 耐汚染性
5. 施工時の乾燥性
6. 経済性

図-2 道路交通事故による交通事故発生件数、死傷者数及び死者数の推移



- 注 1 警察庁資料による。
 2 昭和41年以降の件数には、物損事故を含まない。
 3 昭和46年までは、沖縄県を含まない。

路面標示用塗料 3 種 [レンマーク] 製造

レンマーク工業株式会社

83年度中国通産局長表彰受賞
 日本工業規格表示許可工場

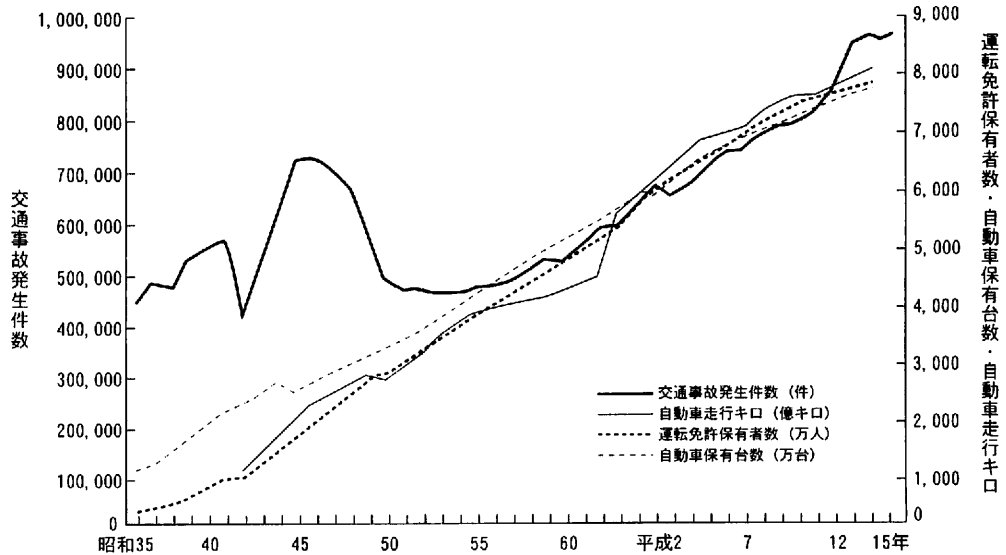
〒731-1142 広島市安佐北区安佐町飯室字森城6864

TEL (082) 835-2511 (代)

である。この中で長年検討されている夜間の視認性、および塗膜のすべり抵抗については施工条件等の影響もあり、性能基準を規格化するまでにはもっていけないのが現状である。

なお、雨天夜間時における視認性の向上は、多種多様な材料及び工法によりかなりの改善がみられている。

図－3 交通事故発生件数、運転免許保有者数、自動車保有台数及び自動車走行キロの推移



- 注 1 交通事故発生件数及び運転免許保有者数は、警察庁資料による。昭和41年以降の交通事故発生件数は、物損事故を含まない。運転免許保有者数は、各年12月末現在である。
- 2 自動車保有台数は国土交通資料により、各年12月末現在の値である。保有台数には第1種及び第2種原動機付自転車並びに小型特有自動車を含まない。
- 3 自動車走行キロは国土交通省資料により、各年度の値である。軽自動車によるものは昭和62年度から計上された。



神東塗料株式会社

スーパーミライナー

(雨天夜間高視認性標示材)

シントーライナー (溶融型)

シントーライナー (常温型, 加熱型)

S P ロード (すべり止め塗料)

本 社 〒661-8511 尼崎市南塚口町6-10-73 (TEL (06)6421-9865)

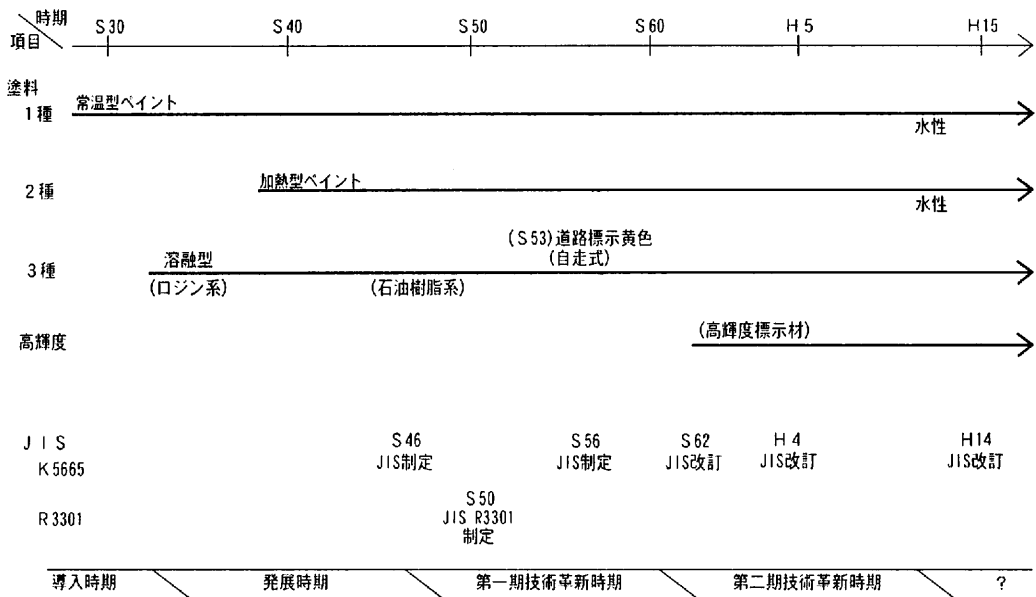
東京本社 〒136-0082 東京都江東区新木場4-12-12 (TEL (03)3522-2353)

2. 路面標示材の変遷

路面標示材料ならびに工法を歴史的流れから見た場合に、これだけ“一貫した”経歴で進んできている塗料（材料）というのは、塗料分野でも珍しい方である。

路面標示が生まれたのは、戦後、自動車の量産に伴う乗用車、貨物車あるいは自転車などとの通行区分、ならびに車のスピードアップに伴う交通事故防止対策に使われたのが始めと考えられる。それ故に、車の発達と共に路面標示材料も工法も変わってきたのであり、今後も車の発達・変化に伴って変化していくものと考えられる。

図—4 路面標示材の変遷（概図）



各種塗料製造販売
道路標示材製造及施工

富国合成塗料株式会社

〒652-0816 神戸市兵庫区永沢町3丁目7-19
(本社) TEL (078)575-6600 (代)

〒651-2235 神戸市西区榎谷町長谷佃井南 145
(工場) TEL (078)991-0158

(支店)大阪 (営業所)東京・名古屋・豊橋・姫路

フコライン

日本の路面標示を見た場合、路面標示材が量的にも技術的にも、昭和40年代になって大きく伸びてきており、道路の種別により使われる品種も区分けされ、要求品質も明確になり、それなりの技術革新が、その時代の社会情勢とニーズに合って発展してきたと考えられる。

これを時期的に大きくくくってみると図-4の路面標示材料の変遷をみていただければわかるように、導入時期、発展時期、50年代中期からの第一期技術革新時期（道路標示黄色の制定、白走式施工の確率等）、平成に入ってから第二期技術革新時期（高輝度路面標示材の普及、水性ペイントの導入等）となる。（上記の各「時期」の表わし方は私なりの用いた表現です。）

近年は、環境問題が大きく取り上げられ、VOCの削減、重金属化合物の削減等、地球環境にやさしい塗料の使用へと変わりつつあり、今後も、溶融型塗料が絶対主流を保つのか、変わった異なる材料に変遷するのか、他の標示材または標示方法に取って替わるのかは、まだまだ不透明な状況である。しかし、今後ますます環境にやさしい材料、やさしい工法に移行していくのは確かである。

なお参考として、日本工業規格（JIS）の改訂から見た規格の変遷を、表-1に示す。（品質規格の詳細については省略する）

交通安全

に貢献する

エースライン®

反射材配合の
溶融施工タイプ
(JIS K5665 適合品)

ユニライン®

常温施工・加熱
施工タイプ
(JIS K5665 適合品)

日立路面標示・区画線用塗料

日立化成工材株式会社 (営業統括部) 〒101-0047 東京都千代田区内神田1-2-8 ☎(03)5282-5711

表-1 JIS規格の変遷

	JIS制定(年)と内容	S56年(1981) 改訂	S62年(1987) 改訂	H4年(1992) 改訂	H14年(2002) 改訂	
塗料の種類	JIS K5491トラフィックペイント(常温用)、JIS K5665トラフィックペイント(よう着用)及び日本道路公団規格の加熱用トラフィックペイントがそれぞれ単独規格として各年に制定された。	JIS K5491トラフィックペイント(常温用)と、JIS K5665トラフィックペイント(よう着用)及び日本道路公団規格の加熱用トラフィックペイントが一体化して新たなJIS K5665が示された。旧K5665のAタイプは、生産実績が少なく削除された。	名称が「トラフィックペイント」から「路面標示用塗料」に変更となる。	1種及び2種の1号・2号の区分(施工時にガラスビーズを散布するかしないかの区分)をなくし、新たに3種に3号を追加した。	ISOへの整合性をはかる。(試験温度が20℃から23℃に変更)	
	1種	S26年(1951) K5491のA	K5665の1種1号	K5665の1種1号	K5665の1種	K5665の1種
		K5491のB	K5665の1種2号	K5665の1種2号		
	2種	S40年(1965)日本道路公団規格として加熱用トラフィックペイントが制定	K5665の2種1号	K5665の2種1号	K5665の2種	K5665の2種
		K5665の2種2号	K5665の2種2号			
3種	S46年(1971) K5665のA	削除	-	-	-	
	K5665のB	K5665の3種1号	K5665の3種1号	K5665の3種1号	K5665の3種1号	
	K5665のC	K5665の3種2号	K5665の3種2号	K5665の3種2号	K5665の3種2号	
	-	-	-	K5665の3種3号	K5665の3種3号	

路面標示用塗料

タイヨーライン (溶融型)

マークラインC2000 (常温型)

マークラインH5000 (加熱型)



大洋塗料株式会社

本社 〒144-0033東京都大田区東糀谷6-4-18 TEL03-3745-0111内
第2工場 〒144-0033東京都大田区東糀谷5-8-3 TEL03-3745-3921

3. 今後の路面標示材料に関する課題

最近のすさまじいハイテク技術の発達により、車の発達進化には目をみはるものがある。路面標示用塗料も時代とともに変化してきてはいるが、まだまだ技術的課題を数多く抱えている。

常温型・加熱型ペイント、熔融型の路面標示材料等を含めて、路面標示における課題を考えてみると、視認性の向上と持続性、施工における安全性、耐すべり性、耐久性などが従来よりの課題ではないだろうか。

3. 1 視認性の向上と持続性

最近では、夜間における照明施設の充実により、夜間での路面標示の視認性は、環境的には良くなっている。しかし、降雨時の夜間となると、対向車がなくても視認性が非常に悪くなる。このことから雨天夜間時の視認性の向上には、長年にわたり試行錯誤が行われた結果、各種高輝度標示材の採用、高機能舗装の普及等により、かなりの視認性向上効果がみられている。

高性能溶着式路面標示用塗料

フジライン

藤木産業株式会社

〒592-8331 大阪府堺市築港新町2-6-50
TEL. 0722-44-5588(代) FAX. 0722-44-6639

溶融式路面標示塗料

高輝度・夜間高視認性
高
視認性・高耐久

■ フジライン
■ ーライン
■ ステップガイド

ラインファルト® 大崎工業株式会社

本 社 〒593-8311 大阪府堺市上 8 9 番地
TEL 0722-72-1453 (代)
営業所 〒144-0033 東京都大田区東糀谷 4-1-4
TEL 03-3743-3004 (代)

しかし、積雪地域における高輝度標示の突起部分が除雪時にほとんど削り取られる問題や、高機能舗装における塗膜の一部が早く摩耗し視認性の低下を起こす問題等まだまだ解決すべき点が多い。


3. 2 施工性の改善


まだまだ路面標示材の主流をなす3種溶融型の施工方法は、導入当時とほとんど変わっていない。この塗料の施工性は、1～3分間の乾燥で交通解放ができるのが最大の特徴であり、他の塗料の追随を許さないところである。しかし、プロパンガスによって200℃前後に加熱溶融するという危険性があり、より低温で施工できる方向に、あるいは常温施工できる方向性を計りたいものである。

また、より少ない人数によって施工できるように機械化ができれば、施工時の危険性も少なくなり、材料などが多少高くてもトータルでの施工コストとしてあまり変わりなく、良い実用性に近いものが得られるのではないかと考える。

3. 3 耐すべり性・耐久性

施工された路面標示材塗膜の耐すべり性・耐久性については、長年の研究課題であり、

路面標示用塗料	非リブ式高視認性路面標示用塗料
アズマライン ハイグリップ	
道路関連資材・交通保安用品全般	
 セイトー化成株式会社	
本社・工場 〒421-0113 静岡県静岡市下川原3555番地 TEL 054-258-5561	
支店・営業所 東京・大阪・九州・静岡・北陸・東北・北海道	

日本のフロント
ボンライン
 信号器材株式会社
〒211-8675 川崎市中原区市ノ坪160 ☎044(411)2191

詳しくは当会報の122号及び123号に掲載されているので参考にされたい。

この課題については、まだまだ研究過程であり、更なる性能の向上に努めたいと考えている。

4. おわりに

将来の路面標示方法について考えれば、ゴルフカートの誘導のように、車の誘導システムの機能を路面標示のラインに持たせるとか、現在のガラスビーズによる光の再帰反射によって夜間視認性を持たせるのみならず、昼間の光を蓄え（いわゆる蓄光性）で夜間に光を発生させ、自転車や歩行者がより視認しやすくする方法などが考えられる。

このほかにもより斬新な標示方法があるかと思うが、今後は、より地球環境にやさしく、安全対策上、より効果の大きなものが求められていくであろう。

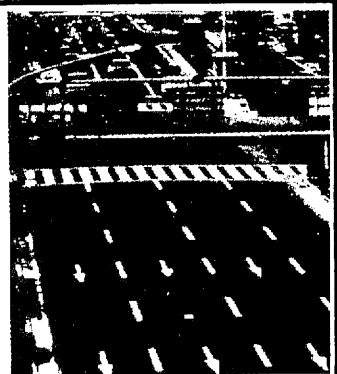
従って我々は今後ともより一層の研究開発に努め、時代のニーズに沿った商品の提供に努めねばならないと思います。

(株)キクテック生産本部関東工場長 路材協技術委員)

総合力でニーズにお応えする セキスイ道路標示材

- 溶融タイプのジスライン
- 感圧貼付シートのジスラインDX
- 加熱融着シートのジスラインS

道路標示材の専門メーカーとして
セキスイは豊富な経験と技術で
優れた製品を創り、交通安全に寄与しています。
耐久性・耐摩耗性・鮮明さは高い評価をいただいています。



交通安全・環境保全に貢献する

積水樹脂株式会社

本社

〒530-0047 大阪市北区西天満二丁目14番4号

(堂島関電ビル6階) TEL.06(6365)3244

ジスライン

平成16年2月末の道路交通事故死者数について

(警察庁交通局交通企画課資料より)

事務局

平成16年2月末(1~2月)の道路交通事故による死者数は、減少している。

しかし、発生件数及び負傷者数は増加している。

平成16年2月末(1~2月)までに発生した交通事故は、

区分	件数・人数	1日平均	前年同期間比
発生件数(概数)	143,801	2,397	+3,063(+2.2%)
死者数	1,065	17.8	-79(-6.9%)
負傷者数(概数)	178,375	2,973	+3,327(+1.9%)

状態別死亡事故件数

状態別	人数	構成比(%)	前年同期間比
自動車乗車中	431	40.5	-49
歩行中	374	35.1	-31
自転車乗用中	111	10.4	-4
自二乗車中	73	6.9	-4
原付乗車中	73	6.9	+7
その他	3	0.3	+2
計	1,065	100.0	-79

昼夜別死亡事故件数

昼夜別	件数	構成比(%)	前年同期間比
昼間	408	39.7	-45
夜間	621	60.3	-37
計	1,029	100.0	-82

昼夜別事故発生地点の道路形状を比較してみると、昼間は夜間より交差点とカーブでの事故の割合が高く、夜間は昼間より一般単路での事故の割合が高い。

都道府県別交通事故発生状況（概数）

2月末

管区	都道府県	発生件数			死者数				負傷者数		
		16年	増減数	増減率	16年	増減数	増減率	順位	16年	増減数	増減率
	北海道	4,804	-362	-7.0	53	21	65.6	4	6,088	-547	-8.2
東北	青森	1,470	-58	-3.8	12	-2	-14.3	34	1,863	-63	-3.3
	岩手	940	67	7.7	13	2	18.2	31	1,205	138	12.9
	宮城	2,206	252	12.9	22	0	0.0	17	2,851	328	13.0
	秋田	835	-9	-1.1	5	-3	-37.5	44	1,039	-28	-2.6
	山形	1,516	-80	-5.0	9	3	50.0	42	1,881	-97	-4.9
	福島	2,385	99	4.3	15	-3	-16.7	25	3,060	147	5.0
	計	9,352	271	3.0	76	-3	-3.8	***	11,899	425	3.7
	東京	12,770	73	0.6	49	3	6.5	6	14,399	24	0.2
関東	茨城	3,731	-81	-2.1	32	-22	-40.7	11	4,755	-155	-3.2
	栃木	2,527	61	2.5	22	-11	-33.3	17	3,242	61	1.9
	群馬	3,725	133	3.7	14	-10	-41.7	28	4,754	108	2.3
	埼玉	7,955	279	3.6	54	-8	-12.9	3	9,903	311	3.2
	千葉	5,577	200	3.7	57	-5	-8.1	1	7,073	254	3.7
	神奈川	9,715	-122	-1.2	56	-3	-5.1	2	11,672	-119	-1.0
	新潟	2,286	23	1.0	21	5	31.3	19	2,848	46	1.6
	山梨	1,159	-11	-0.9	4	-19	-82.6	46	1,554	-6	-0.4
	長野	2,473	42	1.7	18	1	5.9	22	3,251	-22	-0.7
静岡	6,257	481	8.3	43	2	4.9	8	7,963	598	8.1	
	計	45,405	1,005	2.3	321	-70	-17.9	***	57,015	1,076	1.9
中部	富山	1,212	81	7.2	2	-6	-75.0	47	1,437	83	6.1
	石川	1,188	-35	-2.9	13	5	62.5	31	1,469	-62	-4.0
	福井	829	63	8.2	12	2	20.0	34	1,019	37	3.8
	岐阜	2,452	175	7.7	29	-6	-17.1	14	3,331	173	5.5
	愛知	9,322	802	9.4	53	1	1.9	4	11,555	1,051	10.0
	三重	2,053	196	10.6	30	2	7.1	13	2,695	259	10.6
	計	17,056	1,282	8.1	139	-2	-1.4	***	21,506	1,541	7.7
近畿	滋賀	1,385	-28	-2.0	17	8	88.9	23	1,825	-89	-4.6
	京都	2,869	115	4.2	14	-4	-22.2	28	3,537	74	2.1
	大阪	9,477	367	4.0	47	10	27.0	7	11,357	356	3.2
	兵庫	6,502	187	3.0	39	-6	-13.3	10	8,038	218	2.8
	奈良	1,320	38	3.0	8	-2	-20.0	43	1,477	-3	-0.2
	和歌山	1,293	-100	-7.2	12	4	50.0	34	1,610	-87	-5.1
	計	22,846	579	2.6	137	10	7.9	***	27,844	469	1.7
中国	鳥取	510	83	19.4	10	3	42.9	40	657	85	14.9
	島根	463	-55	-10.6	5	-6	-54.5	44	575	-23	-3.8
	岡山	3,002	-308	-9.3	23	-4	-14.8	15	3,881	-329	-7.8
	広島	3,229	6	0.2	31	-1	-3.1	12	4,106	-1	0.0
	山口	1,520	-108	-6.6	20	-5	-20.0	20	1,960	-116	-5.6
	計	8,721	-382	-4.2	89	-13	-12.7	***	11,179	-384	-3.3
四国	徳島	960	-15	-1.5	11	1	10.0	38	1,214	-7	0.6
	香川	1,954	84	4.5	12	0	0.0	34	2,418	136	6.0
	愛媛	1,756	100	6.0	15	-11	-12.3	25	2,150	89	4.3
	高知	761	-52	-6.4	16	5	45.5	24	887	-101	-10.2
	計	5,431	117	2.2	54	-5	-8.5	***	6,669	131	2.0
九州	福岡	7,550	124	1.7	11	-3	-6.8	9	9,183	-54	-0.6
	佐賀	1,530	-64	-4.0	15	-7	-31.8	25	2,026	-95	-4.5
	長崎	1,294	-68	-5.0	10	-7	-41.2	40	1,710	-57	-3.2
	熊本	1,746	58	3.4	23	4	21.1	15	2,253	37	1.7
	大分	1,125	43	4.0	14	-1	-6.7	28	1,496	18	1.2
	宮崎	1,550	429	38.3	20	5	33.3	20	1,960	520	36.1
	鹿児島	1,761	18	1.0	11	-9	-45.0	38	2,176	110	5.3
沖縄	857	-60	-6.5	13	-2	-13.3	31	972	113	13.2	
	計	17,413	480	2.8	147	-20	-12.0	***	21,776	592	2.8
	合計	143,801	3,063	2.2	1,065	-79	-6.9	***	178,375	3,327	1.9

注：増減数(率)は、前年同期と比較した値である。

事務局便り

1. 会員の異動

(1)正会員

信号器材㈱の理事は、石野憲男氏から中島浩治氏（生産本部取締役生産本部長）に変わりました（4月）。

信号器材㈱の業務委員は、坂村 茂氏から斉藤 明氏（新製品推進事業部主任）に変わりました（4月）。

(2)賛助会員

キクチカラー㈱の本社は、4月5日（月）から次の場所に移転しました。

移転先 〒115-0051 東京都北区浮間5-3-33

電話（代表）：03-5916-2881 FAX：03-3965-8156

2. 委員会活動

技術委員会

全標協・路面標示委員会と「環境対策型路面標示用黄色塗料（無鉛化）について」の懇談会に技術委員長他4名が出席し説明を行いました。

（3月9日（火）於 全標協会議室）

余滴

桜の開花は、その年の天候に大きく左右し、早かったり遅かったりと、その時期が変わります。今年は、桜の開花が早いと言われ、イベントに合せ旅行に出かけたものの残念ながら僅かな花びらを眺めることしかできず、誠に残念。自然現象（自然的環境）のなせる技に脱帽した次第です。

自然の環境には、許容される量があり、水や空気や土壌などの自然環境も、エネルギーや鉱物などの地下資源と並ぶ大切な「資源」とも言われています。最近では、地球温暖化の防止策として大気汚染防止法の改正が進められています。

当協会でも、環境対策に技術委員の皆さんが頑張っております。これからは、環境にやさしい路面標示用塗料が多く採用されることが望ましいと思います。

また、一方では、交通事故による発生件数や死傷者数が再び増加している中での交通安全施設の前算が減少傾向にあると聞いております。投資対効果が高いといわれている路面標示の設置が「必要なところ」に、いつも「良く見える」事が大切だと思います。

平成15年の交通事故による30日以内の死者数は、8,877人と9,000人を下回ったと報告されております。関係者の方々のご努力に感謝しますと共に、あわせて交通発生事故件数や、負傷者数も減少することを願っております。

（小林）

路面標示材協会 TEL：03-3861-3656 FAX：03-3861-3605